

# 絵に込めた 患者の思い

## 製鉄記念病院で展覧会

がん患者らによる絵画展「がんと生きる、わたしの物語」が、製鉄記念室蘭病院（知利別町）の「せいてつギャラリー」で開かれている。告知されてからの驚きや悲しみ、前を向こうとする強さなど、さまざまな思いが込められている。

製薬会社の日本イーライリリー（神戸市）が主催する本年度の絵画・写真コンテストで上位に入賞した作



美しい配色の作品も多い、  
がん患者らによる絵画展

品8点を紹介。全国約80カ所の医療機関で作品展を開き、西胆振では初めて。

作品はA1判。繊細なタッチで描いた野草や「命の炎」と題した心象風景などの絵画に、作者のエッセーが添えられている。

その内容は「夫の『私は生きる、絶対生きる。』という意志が私に希望をくれた。夫の意志をついで家族のため、自分のため、強く生きたい」、「限られた時間の中で、それぞれのいのちの花を咲かせることができると」などと懸命な心の内をのぞかせる。

同病院の山口秀一事務長は「勇気をもらえる作品ばかりです」と話す。31日まで。無料。（芝垣なの香）